

## 日仏シンポジウム「移民と国境」

4月17日 セッション4「外国人」であるということ 辛淑玉発表 聞き起こし

はじめまして。辛淑玉と申します。東京生まれ、東京育ち、三代続いた江戸っ子になります。国籍は今、韓国。韓国籍です。私はよく自分のことを朝鮮人と言います。で、これはちょっと訳すの大変だと思いますね。朝鮮人という日本の社会で言いますと、北朝鮮の人、というふうに思われて、そして三代目でなおかつ、朝鮮人と言っているのは、日本が嫌いなんだろうという、ものすごくストレートにそれにつながっていきます。ですから私が何か話をすると、言われる言葉というのは、「あなたは日本が好きですか？」という質問をされます。で、「日本」というのは何を指しているのですかと、経済なのか文化なのか、何を指してあなたは日本と言っていますか？というふうに聞きますと、次に返ってくるのは「日本人は好きですか？」というふうに聞かれます。そうすると、あなたが言っている「日本人」の中にはアイヌは入ってますか、とか、それからウチナンチュ、これは沖縄ですね、は入っていますかとか、セクシャルマイノリティーの人たちは入っていますか、とか、社会が障害になっている人たち、俗に言う「障害者」ですね、は入っていますか、とか聞くわけですね。そうすると、このようにして、相手の言ったことに対して問い返しをするということは、口答えをしている外国人、になりまして、でそうするとですね、次に聞かれる最後の向こうの切り札ですね、それは、「日本と韓国もしくは日本と北朝鮮が戦争になったら、あなたはどちらにつきますか？」ということ聞かれますね。で、このように直接的に聞いてくれるのはまだ質のいいほうで、大人になるともっと違った言い方をして、「日本と韓国、日本と北朝鮮、サッカーの試合の時はどちらを応援しますか？」と少しこうオブラートに包んだ言い方をします。で、私はその時に日本の人にですね「辛さんは戦争になったらどうなると思いますか」とまた反対に、どちらに皆さんが望まれているように、どちらにつくと思いますかというふうに反対に聞きます。で、これは実は東大の学生に聞かれたんですよ。それで東大の学生、私が授業をたまたま受け持ったのが法学部と医学部でした。その時の学生は辛さんはどっちにつくと言ったと思いますか。今、私司会じゃないんですけど、聞いてるんですが。東大の学生は何と答えたと思います？

[司会の増田一夫先生：どっちなんでしょうね。これはすごく、こういう立場になるとは思っていなかったの。えーと、そうですね、まあストレートに、あのもしかすると、あれですよ、コリアのほうにつくというふうに答えたのではないかというふうに、とりあえず。]

約七割が「韓国につく」、二割が「日本につく」、で、一人だけが「中国に行く」と言ったんですね。で、その「中国に行く」と言った人にどうして私は中国に行くというふうに思ったんですか、と聞きました。その時の東大の学生はですね、「中国も韓国も反日だから仲がいいはずだ」って言ったんですね。その学生は韓国の中で最も差別されているのが中国人だということの認識がないんですね。それでその時に私が答えたのは「韓国にいても日本にいても北朝鮮に行っても一番最初に殺されるのが私です」と申し上げました。在日、国と国の間で生きるというのは、どこにいても殺されるということ

であって、だからあなたたちが簡単に言う反戦平和とは全く違う、リアリティーを持った形で戦争に反対だし、社会を作っていきたいと思っています、というふうに答えました。その私が実は今回、東日本大震災の時に多くの企業人が「頑張れニッポン」と言って沢山の寄付をしました。その中に在日で私と同じように三世で、日本国籍を取得した孫正義、ソフトバンクというところの会長ですね、彼が百億を個人的に寄付しました。で、なおかつ自分の今後の給料、現役である時の給料、年間二億ぐらいあるんですね、それも全部寄付するというふうに言いました。他の日本の、まあ、「日本の」と言ったらヘンですね、日本の国籍を持って日本人として、自分がそう思っている人たち、の中で例えば楽天という会社のトップであります三木谷さんは十億でした。それから私たちがよく着るユニクロという洋服のファーストリテイリングの会長の柳井さんも十億でした。孫正義の百億が出た時に在日の先輩が私の隣でこう言いました。「保険をかけてくれたんだね」って。で、その言葉を日本の人はおそらく全く理解しないだろうと思います。日本人の十倍の金を出す、それはこの社会に対して日本人の十倍の怖さがあるんですね。

私の家の話をします。今回東日本大震災が起きて、そのあと原発が水素爆発をしまして、私は私の家族を西のほうに避難させました。私は東京に住んでいます。私は東京にいました。というか、もっとはっきり言うと被災地の中に入っていました。だけど家族は西に避難させました。原発が怖くて避難させたわけではありません。これは長引くな、日本人が危機的な状況になるのが長引くな、と思ったんですね。この感情をお話するのは今日が初めてです。もしこれを日本の社会でしゃべったらどんな仕打ちをされるかと思うから、私でさえもこの感情は公には言葉にしません。私が家族を避難させたのは、日本人と自称している人たちが怖かったからです。怖かったのにはそれなりの経験があるからです。多くの日本の人たちは「被害妄想」と言います。でも「被害事実」なんですね。その積み重ねが家族を避難させることになりました。私と同じような思いで避難をした人を私はあと二人しか知りません。もっとはっきり言えば、私の周りで私と同じような思いで避難をさせた人は二人だけ知っています。それ以外の人は知りません。

1985年、私は会社をたてました。その頃はまだバブルの頃です。バブル、つまり日本の経済がとてもいい調子で上がっていた時ですね。だから事務所を借りるのはとても大変でした。外国人の独身の、しかも朝鮮人の女が日本の社会の中で事務所を借りるというのはホントに大変で、私は名刺が、今でも覚えています、17センチになるほど不動産屋の名刺が溜まりましたが、不動産屋がよくてもその家主、大家さんがダメと言ったりとかして大変でした。やっと借りられても更新ができませんでした。これは二年経つと更新します。私よりもっといい借り手が沢山いたからです。

在日の名前で仕事をする目と前で名刺を落とされました。コンペで自分の企画書を出すと、まず企画書を受け取ってもらえませんでした。その企画書を日本能率協会というある種の財団の名前で出したらすべて通りました。ローンもききませんでした。ローンというと何か大きな家のことだと思いますが、もっとはっきり言うとリースです。パソコンを買う、昔はちょっと高かったので毎月五千円ずつのリースにします。リースを組むのに日本人の家持ちの、家を持っている保証人を二人つけなくて

はいけませんでした。私の年齢で家を持っている友達はいません。ですから現金で仕事を回していなくてはなりません。私は研修というのが仕事です。現場に行きます。そうすると受講生が私の顔を見て「あちらの方が先生とは思いませんでした」と言って教室から出て行かれたことがあります。辛淑玉という名前で仕事をしているとしんどいです。そうすると今度は社員が「何でそんな民族にこだわるの」と言われます。そして嫌がらせの、当時はファックスです、が入ります。定期的に朝十時に電話がかかってきて、「死んだら」という電話がかかってきます。そうすると日本の社員はやめていきます。「もっとちゃんとした会社に勤めたいから」と。日本の企業と同じことをしていたら生きていけません。

そんな中で、明らかにこの国が変わったな、と思ったのは2000年からです。それまでは例えば嫌がらせをしてくる人たちは酔っ払いであったり、それから明らかに電話の受話器の向こうで感じるその人は、まあ何て言うのかな、低所得で学問を受けた経験のない人たちであったり。だから例えばですね、酔っ払いながら、私たちは「コラコラおじさん」と言っていたんですけど、「コラー！コラー！コラー！」と毎日電話がかかってくるおじさんがいたりとかですね、あとそれから留守番電話にですね、例えば「4月18日9時15分東京駅、9時半どこそこのお店、10時25分新宿駅」とかですね、私が行った行動をずーっと留守番電話に入れていたりとかですね。それから君が代を歌って留守番電話に入ってる人たちとか、それから右翼の名前を借りて嫌がらせをしてきたりとか。ですから私のところには、実は日本で人を殺した右翼がいて赤報隊というのがあるんですが、何回も赤報隊から電話がかかってくるわけですね。つまり自分よりかもうちょっと大きなもの、怖いものにして生意気な朝鮮人の女に対して少し言ってやろうという、まあ本当に社会の底辺の人たちでした。

2000年になった時にそれははっきり変わりました。石原慎太郎さんという東京都知事がいます。彼が自衛隊を前にして、大きな災害が起きた時には三国人、これは朝鮮人に対する差別用語です、三国人がまあ物騒なことを起こしかねないからその時は自衛隊が出てきて始末をしてくれ、というふうに言いました。これが俗に言う「三国人発言」ということで国連の人種差別撤廃委員会から勧告を受けました。でも、国連はおかしいというかたちで日本の社会の中からも何のほとんど批判が上がりませんでした。

この2000年を境にしてうちにかかってくる電話ははっきりと変わりました。実名で電話がかかってくるようになりました。実名でファックスやメールで「外国人には出て行って欲しいんだ」ということをはっきりと会社の名前も書いて送ってくるようになりました。書かれてた電話番号に折り返し電話をします。いるんですね。大変有名な通信会社の部長であったり、お医者さんであったり、新聞の記者であったり。見事でした。はっきりと、堂々と、胸を張って「外国人には出て行って欲しいんだ」ということを言い始めたのが2000年です。それから経済の状況がものすごく悪くなってきて、それと同時に、大衆が敵になるという状況がはっきりとしてきました。うちの会社にくる嫌がらせで一日の中で一番多かった日は、電話、メール、嫌がらせの物が送られてくる、その他全部含めて一日603件でした。30件を越すと嵐になります。会社は仕事ができなくなる。603件は暴風雨でした。うちの会

社のスタッフは全員が日本国籍です。日本人です。彼らが会社に、私が会社に行った時にね、彼らが机をこういうふうを持ってですね、全員、まあ男性なんですけども、ガタガタガタガタって震えているんですね。どうしたの？って聞きました。権力との戦いには慣れている。だけれども多くの日本の子どもたちは大衆が敵になる経験をしたことがないんですね。震えてました。私は仕事をするということは日本人を守りながら仕事をしなくてはなりません。

このあいだ電車に乗っていましたら、とても綺麗な装いの、おそらく 30 代から 40 代の女性だと思います、電車の中の座席のシートのところの体の不自由な人たちの優先席ですと書かれている席があります。そこに英語と中国語と韓国語で書かれています。そしたらね、こう言いました。「これは何？」って言うふうになんか言った時に「ああ、それはね、韓国語よ」って誰かが言ったんですね。そしたらそこにいたその女性がですね、「サービスのしすぎ。だから凶に乗るのよね」って言ったんですね。その何か美しい姿とその言葉のあまりにもギャップに、そうか、と思いました。

今、日本で吹き荒れている、在日の特権を許さない会というのがあります。何が特権があるのかといつも思うのですが、その彼らが裁判でこう言いました。朝鮮人は人間ではない、と。それを聞いて私は、この人たちは何て正直な人なんだろう、と思いました。

このあいだ、といいますかも 2 年前になります。花岡事件というのが昔ありまして、これは花岡の鉱山で中国人が、強制連行された中国人たちが奴隷のようにしてそこで扱われ、多くの人々が死に、決起して。まあ、事件がありました。その慰霊の、慰霊祭というのが東京でありまして私はそこに参加しようと思って行きました。そしたらね、入り口の何カ所かでおそらく 40 人か 50 人ぐらいでしょう在特会の人たちが激しく罵声を通る人たちに浴びせかけていました。地声です。しかも、そのね、労働組合のやるようなあんなちゃんなものではない。ホントに嬉しそうに腹の底から「出てけー！」というかたちで、まあそれは凄かったです。しかも中には着物を着ている女性がいたり、明らかに 10 代、20 代と思える女の人々がいたり、地下鉄の駅からそこまでの間約 150 メートル、私を囲み、私の周りで一緒に歩きながら私に対して「こいつも、こいつもチャンコロか」と言って延々と罵声を約 150 メートルくらい、彼らは私に浴びせかけました。警察はいましたが、誰も止めませんでした。そして彼女たちはこう言いました。朝鮮人がいると日本が汚れたよこれたような気持ちになる、と。日本が汚れる、けがれると言いました。穢れる、とも言いました。

朝鮮人の日本の社会における様々な嫌がらせや暴行事件は恒常的に続いています。しかしそれは日本のメディアでは決して報道されません。私たちが記者会見を一時やったことがあります。それは北朝鮮政府による日本人の拉致事件が起きた時に、あれが発表された時に、私の手元に集計できただけで日本人の人たちによる朝鮮人に対する嫌がらせ・暴行事件は一月に 300 件を超えていました。それに対して記者会見をしましたが、100 社くらい来ましたがどれも 1 社もそれは記事にはなりません。広島だったと思います。朝鮮人のチマチヨゴリを着た女の子がつけ狙われてきた男の人に車に連れ込まれてガムテープでぐるぐる巻きにされて殴られたあげくに道路に投げ捨てられました。一回記事が出ましたが、そのあとすぐ記事が止められました。止めたのは朝鮮人のほうです。ひとつ何か事件が

起きるとそれを機に連鎖的に沢山の事件が起きるからです。怖かったです。だから国連には報告書としては出しても日本の社会の中でそれを声にあげることができません。

講演会に行ってもどこに行っても朝鮮人であることでこの国でよかったことは何一つない。

今回の震災で移住労働者のために国と向き合いました。私の友達は沢山が政府の内閣にも入り、今テレビで見ている官房長官の枝野をはじめとしてみんな友達です。被災地にいる外国籍住民に対するデマ、そしてその人たちに必要な言語のサポートがなされていないからホットラインを作りたいと交渉しました。民間企業とも交渉しました。返ってきた言葉は、先に外国人の救済をすることは日本の国民感情が許さないでしょう、ということでした。私は移住者のためのマニュアルを一番最初に作ってホームページにアップをしたいと思います。でも、その前に日本人を助けるものを作らなければそれは届かないということも分かります。労働組合が使うマニュアルに最初に日本人用、そして次には日本人を含めたマイノリティーのためのもの、その中に移住労働者の問題を入れない限りこの社会は受け入れてくれません。この一ヶ月間、私は死ぬほど動きましたが無力でした。その中で孫正義の百億は朝鮮人や中国人やフィリピン人や日系ブラジル人や日系ペルー人や、いらないとされている人たちにとっての保険になりました。かつて私はクルド難民の人たちを助けてもらいたくて政治家と交渉しました。動いてくれなかった。最後にやったのは政治家のパーティー券を百万単位で買ったことです。あの時に私は自分のクルドの友達を金で買うと思いました。金でもいいから買おうと思いました。二百万のパーティー券で救えたのは二人です。金がないと救えません。孫正義がどういう思いで百億を出したのかは分かりません。でも一ヶ月間何もできなかった、動いたけど何の結果も出せなかった、日本人がパニックになる最初の 100 時間、その時間を誰も助けられなかった、その私は孫正義にありがとうと伝えたいと思います。以上です。